

〔第4回〕

NCGG-RI 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

魚とメチル化とアルツハイマー病診断

再生再建医学研究部 組織再生再建研究室

下田 修義 室長

2015年12月8日(火) 16時00分～
第1研究棟2階大会議室

半世紀前にソ連で見つかった鱒の加齢に伴うDNAメチル化の減少、いわゆるエピジェネティックドリフト(漂流)が今ようやく、老化及び老年病の原因として注目されています。しかし未だこの現象と老化との因果関係は認められていません。私たちはもしそこに因果関係があるのなら、若い頃のエピジェノタイプから老化フェノタイプの表出をうまく予測できるはずだと考えています。そのうえで、老化フェノタイプとしての明確さ、加齢依存性、サンプル集積の度合い、社会的要請等から考えて、アルツハイマー病をその仮説を検証するための好適な対象と捉えています。そこで私たちはまずゼブラフィッシュを使い、加齢で変化しやすいDNAメチル化領域を見つけることから研究を始めました。そしてそこから得た知見を活かして現在、血中DNAをもとにアルツハイマー病患者と健常者を7割以上の確率で判別できるところまでできました。

座長：中島 美砂子